

≫≫ 新着資料案内 新しく受入れた資料をご案内いたします

■ 書 籍 ■

『タイヨウのうた Invitation Book』		SDP
『舞曲扇林 日本舞踊基本と本質』	丸茂祐佳(編著)	私家版
『メディア横断芸術論』	守安敏久(著)	国書刊行会
『読売テレビ50年社史』		読売テレビ放送
『実演芸術の国際交流に関する調査研究報告書』	芸団協(編)	日本芸能実演家団体協議会
『文楽 鑑賞のために』	国立文楽劇場営業課(編)	日本芸術文化振興会
『無形文化財の伝承に関する資料集』		東京文化財研究所無形文化遺産部
『シリーズ 日本のドキュメンタリー1 ドキュメンタリーの魅力』	佐藤忠男(編著)	岩波書店

■ 松竹系 5月公演資料 ■

○ …… 受入済み

劇場	演目	台本	スチール	プログラム	ポスター
新橋演舞場	『西郷と豚姫』	○			
	『新歌舞伎十八番の内 紅葉狩』	○		○	○
	『女殺油地獄』	○			
	『通し狂言 椿説弓張月』	○			
平成中村座	『本朝廿四孝 十種香』	○			
	『四変化 弥生の花浅草祭』	○			
	『神明恵和合取組 め組の喧嘩』	○			
	『歌舞伎十八番の内 毛抜』	○		○	○
	『志賀山三番叟 上演口上』				
	『江戸随一 志賀山三番叟』				
平成中村座 (試演会)	『本朝廿四孝 十種香』				
	『毛抜』				
	『たぬき会 供奴』				
	『ご挨拶』				
日生劇場	『2ピアノ4ハンズ』		○	○	○
	『舟木一夫コンサート 芸能生活50周年記念』			○	○
南座(京都)	『ふるあめりかに袖はぬらさじ』			○	○
	玉三郎“美”の世界展			○	
松竹座(大阪)	『菅原伝授手習鑑 寺子屋』	○			
	『新古演劇十種の内 身替座禅』	○			
	『恋飛脚大和往来 玩辞楼十二曲の内 封印切』	○		○	○
	『絵本太功記』	○			
	『高坏』	○			
	『ゆうれい貸屋』	○			

ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします

■ 他社公演資料 ■

あうるすぽっと	4月	『賭け』プログラム、台本
吉祥寺シアター	4月	『絶頂マクベス』プログラム
紀伊國屋サザンシアター	5月	『川を越えて、森を抜けて』プログラム
国立劇場小劇場	4月	『明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会』プログラム
国立劇場大劇場	5月	『前進座五月国立劇場公演』プログラム、台本
国立文楽劇場	4月	『第一二六回 文楽公演』プログラム、床本
彩の国さいたま芸術劇場	4月	『シンベリン』プログラム
サンシャイン劇場	4月	『舞台 陽だまりの樹』プログラム、台本
シアタークリエ	4月	『道化の瞳』プログラム
シアタートラム	5月	『ミッション』プログラム
		『カフカの猿』プログラム
渋谷区文化総合センター大和田さくらホール	5月	『土御門大路』プログラム
新国立劇場小劇場	4月	『負傷者16人 SIXTEEN WOUNDED』プログラム
水天宮ピット	4月	『THE BEE Japanese version』プログラム
青年座劇場	4月	『国境のある家』プログラム、台本
世田谷パブリックシアター	4月	『MANSAI 解体新書 その貳拾「鏡」』プログラム
名取市文化会館	4月	『東日本大震災復興支援チャリティー歌舞伎公演』プログラム
		『たのしい歌舞伎入門』プログラム
俳優座劇場	4月	『幸せの値段』プログラム、台本
博多座	5月	『松本幸四郎 in ラ・マンチャの男』ポスター
博品館劇場	4月	『中島啓江コンサート夢で逢いましょうVol. 19』プログラム
		『シャンテ・ラ・レビュー21st』プログラム
		『舞台 ふしぎ遊戯 青龍編』プログラム
	5月	『ロミオとジュリエットのハムレット』プログラム
文学座アトリエ	5月	『ナシャ・クラサ』台本
御園座	5月	『ふるあめりかに袖はぬらさじ』プログラム
	5月	『島津亜矢特別公演 御園座さよなら公演』プログラム
三越劇場(日本橋)	5月	『あるジーサンに線香を あなたは若返りたいですか』プログラム
明治座	5月	『早乙女太一特別公演』プログラム
ル テアトル銀座	5月	『舞台 戦国BASARA 2』プログラム

■ 映画資料 ■

○ …… 受入済み

タイトル	プログラム	プレス	ポスター	スチール写真	台本
『劇場版 BLOOD-C The Last Dark』	○		○		

■ 映画プログラム ■

『フェイスズ』	『猿ロック THE MOVIE』	『ダーク・シャドウ』
『メアリー&マックス』	『裏切りのサーカス』	『僕等がいた 後篇』
『私が、生きる肌』	『ガール』	『マンイーター』
『映画クレヨンしんちゃん 嵐を呼ぶ!オラと宇宙のプリンセス』		『劇場版 SPEC~天~』
『Black & White/ブラック & ホワイト』		『タイタニック 3D』
『バトルシップ』	『キリング・ショット』	『テルマエ・ロマエ』
『幸せの教室』	『宇宙兄弟』	『ザ・マペッツ』
『ファミリー・ツリー』	『メン・イン・ブラック3』	『ミッシング ID』
『君への誓い』	『ヘルプ ~心がつなぐストーリー~』	『名探偵コナン 11人目のストライカー』
『映画 紙兎ロペ ~つか、夏休みラスイチってマジっすか!??~』		

(新規登録資料案内 続き)

■ 演劇雑誌 ■

『あぜくら』平成24年5月号

『Bunkamura magazine』2012 JUNE No. 86

『Confettiかわら本』2012年6月号

『伝統文化新聞』2012年(72号)

『演劇ぶっく』2012年6月号

〔《特集》表紙のヒト TEAM NACS 森崎博之 安田顕 戸次重幸 大泉洋 音尾琢真／『うるう』小林賢太郎／大人計画『ウェルカム・ニッポン』伊勢志摩 皆川猿時 近藤公園／三谷幸喜〕

『悲劇喜劇』2012年6月号

〔《特集》翻訳劇について 《掲載戯曲》「雨傘」ハロルド・ピンター 翻訳=喜志哲雄／「百年の秘密」ケラリーノ・サンドロヴィッチ〕

『邦楽の友』平成24年6月号

『ほうおう』2012年7月号

〔《インタビュー》市川亀治郎改め四代目市川猿之助 《特集》OSK特集Vol. 1 OSK日本歌劇団創立90周年記念／新派四季暦 三田村邦彦、新派初登場を語る！〕

『ジ・アトレ』2011年9月、10月、12月～2012年5月

『演劇界』2012年7月号

〔《特集》澤瀉屋四人同時襲名／寄稿：二代目市川猿翁／インタビュー：四代目市川猿之助、九代目市川中車、五代目市川團子／特別採録：対談 初代猿翁×三代目市川猿之助／芸の系譜 澤瀉屋の人々 《インタビュー》尾上菊之助〕

『歌舞伎 研究と批評』2012年(47)〔《特集》昭和の『忠臣蔵』〕

『上方芸能』2012年6月(184号)〔《特集》文楽を守れ！ 132氏からの熱いメッセージ〕

『神奈川芸術プレス』2012年6月Vol. 106

『喝采』2012年8月

〔《特集》宝塚歌劇雪組公演ミュージカル『フットルース』音月桂 舞羽美海 インタビュー〕

『国立演芸場公演ガイド』平成24年6月号

『コメディアン』636号～643号

『ミュージカル』2012年5月～6月号〔《特集》『エリザベート』〕

『日本芸術文化振興会ニュース』平成24年6月号

『日本照明家協会雑誌』2012年5月号

〔《インタビュー》中学校演劇指導者 斉藤俊雄さんに聞く 《特集》第39回定時総会開催告示／公益社団法人日本照明家協会 東北地方支援第2弾本部特別企画 懇談会「今だから明日を語り合おう」／大阪 新歌舞伎座〕

『日本舞踊』64巻6月号

〔《特集》秘曲・新曲サロン 長唄 八重九重閏鏝雛／舞踊写真教室 長唄 お祭り(上)〕

『大向う』平成24年6月号

『ラ・アルプ』2012年6月号

〔《特集》『キャッツ』横浜公演千秋楽、広島公演決定！／『サウンド・オブ・ミュージック』福岡トラップ・ファミリーの子どもたちの初舞台！〕

『SePT倶楽部 information』2011年9月号、10月号、12月号～2012年5月号

『シアターガイド』2012年7月号

〔《特集》渋谷・コクーン歌舞伎「天日坊」串田和美&宮藤官九郎&中村勘九郎 中村七之助 中村獅童／三谷幸喜／「六月大歌舞伎」市川亀治郎改め四代目市川猿之助 市川猿之助改め二代目市川猿翁〕

『テアトロ』2012年6月号

〔《特集》わたしが魅せられた演劇人 《掲載戯曲》「だらぶち～月夜に荒ぶる男達～」阿寒弁／「博多小女郎波枕」鐘下辰男〕

『前進座』2010年7月724号～2012年5月735号

■ 映画雑誌 ■

『アウラ』2012年208号 [《特集》情報番組の伝え方、見られ方]

『Cre Bizークリエイティブ産業におけるビジネス研究』2012年3月7号

[《特集》映画祭における3つのマーケティング 矢澤利弘/戦前期の日本映画における「国際性」の概念 土田環]

『ドラマ』2012年6月号

[《特集》藤川桂介 時代が見えるプロファイル脚本術 《掲載シナリオ》『ATARU』1話・2話 櫻井武晴/『猫弁～死体の身代金～』大山淳子]

『映画テレビ技術』2012年6月号

[《特集》映画『外事警察 その男に騙されるな』の撮影・照明/「記者たちの眼差し」を製作して…/『鳥を見て!』の映画製作について/映画録音の基礎知識]

『映画芸術』2012年春号(439号)

[《特集》〈映画俳優〉という希望 染谷将太 井浦新 村上淳 宮崎将 松坂桃李 新井浩文/『SR サイタマノラッパー ロードサイドの逃亡者』/追悼:森田芳光 田中真澄]

『映画撮影』2012 May No. 193

[《特集》撮影報告『苦役列車』『僕の中のオトコの娘』『罪と罰』『蛇蝎のごとく』『プッチーニに挑む 岡村喬生のオペラ人生』『相馬春花』「第一部 奪われた土地の記憶」]

『映画秘宝』2012年7月号 [《特集》発表!映画秘宝が選ぶベスト・アメコミ映画30!]

『衛星劇場プログラムガイド』2012年6月号

『キネマ旬報』2012年6月上旬号

[《特集》感じる、ウディ・アレン「ミッドナイト・イン・パリ」/ティム・バートン世界を解く「ダーク・シャドウ」/「幕末太陽傳 デジタル修復版」記念鼎談 芦川いづみ×橋本文雄×川本三郎]

『京橋映画小劇場 KYOBASHI-ZA』No. 24

『民間放送』1879号~1897号

『ムービー・スター』2012年7月号

[《特集》『ダーク・シャドウ』ジョニー・デップ/『glee/グリー』/『アメイジング・スパイダーマン』]

『日経エンタテインメント!』2012年6月号

[《特集》これが女優の生きる道 連ドラ主演女優から声優、子役まで/タレントパワーランキング2012]

『日本アカデミー賞』2012年第35回

『ロケーションジャパン』2012年6月号

[《特集》手越祐也/ドラマ・映画で見つける、味わう 私だけ特別…♪ in 東京 香里奈]

『SCREEN』2012年7月号

[《特集》2012サマー・ムービーの全貌/「メン・イン・ブラック3」/ジョニー・デップ]

『シナリオ』2012年7月号

[《掲載シナリオ》『カントリーガール』渡辺あや/『くそガキの告白』鈴木太一 《インタビュー》渡辺あや+小林達夫]

『シナリオ教室』2012年6月号

[《掲載シナリオ》「函館イルミナシオン映画祭2011 第15回シナリオ大賞」受賞作:準グランプリ『なつかしや』石原理恵子/審査員特別賞『紅梅』水村節香]

『シネ・フロント』2012年5月号

[《特集》『誰も知らない基地のこと』エンリコ・パレンティ監督・トーマス・ファツィ監督/ケン・ローチ監督『ルート・アイリッシュ』/ジム・ローチ監督『オレンジと太陽』 《掲載シナリオ》『誰も知らない基地のこと』]

『松竹(社報)』2012年(169号)

『TVガイド』2011年8/26号、9/2号、9/9号、9/16号、9/23号、9/30号、10/7号、10/21号、10/14号

『ザ・テレビジョン』2011年8/26号、9/2号、9/9号、9/16号、9/23号、9/30号、10/7号、10/21号、10/14号

第22回 松竹大谷図書館所蔵資料展示 「市川猿之助」展

展示期間：2012年6月1日～6月27日 於：松竹大谷図書館閲覧室

今月の所蔵資料展示は、新橋演舞場6・7月公演における四代目市川猿之助の襲名を記念し、初代から四代までの市川猿之助に関連した資料を展示しております。

初代猿之助(安政2年[1855]～大正11年[1922])は、立師(たてし)として知られた坂東三太郎の長男です。坂東羽太郎の名で文久2年[1862]9月市村座『花川戸未熟者中』の幡随院長兵衛倅長松役で大歌舞伎の初舞台を踏みます。明治4年に九代目團十郎の門人となり、猿之助の名乗りを許され重用されますが、同門の妬みを買って一座を離れる間、明治6年中島座において師に無断で『勸進帳』の弁慶を演じたため破門されます。明治23年ようやく帰参がかない、以後團十郎一門として活躍し、明治38年の九代目團十郎の三回忌追善興行では、師匠の着物を身に付けて弁慶を務めます。明治43年[1910]10月歌舞伎座『鎌鼬』で、長男團子に猿之助の名を譲り、自らは二代目市川段四郎を襲名しました。



組上燈籠『歌舞伎座新狂言俠客
春雨笠中之町場組上ケ三枚続』
(明治30年)
逸見鉄心斎=初代猿之助

二代目猿之助(明治21年[1888]～昭和38年[1963])は初代猿之助(=二代目段四郎)の長男です。明治25年[1892]10月歌舞伎座『関原菅凱歌』の千代松役で團子を名乗り初舞台を踏みます。明治37年[1904]京華中学へ進学、当時の歌舞伎界としては異例の旧制中学出の役者となります。明治43年、父の名・猿之助を襲名。大正8年[1919]には劇界の視察のため洋行、ロシアバレーに感銘を受け、帰国後『蟲』などの革新的な舞踊作品を創作します。歌舞伎公演の合間にも、夏目漱石原作の『坊ちゃん』の劇化など近代劇の上演にも意欲的に取り組み、また「春秋会」などの自主公演も積極的に行います。こうした活動に共鳴した劇作家らの協力を得て『高野物語』『小鍛冶』『黒塚』『蚤取男』『独楽』など、後に孫の三代目猿之助によって猿翁十種に選定される作品も生み出されます。昭和38年[1963]5月、二代目猿之助はその名を孫の團子に譲り、猿翁と改名します。その襲名披露公演を前に、病が悪化していた猿翁は入院、演じるはずだった当り役の『黒塚』は三代目猿之助が受継ぎ初演します。最終の三日間、同じく病に伏していた息子三代目段四郎とともに病院から駆けつけ、口上を述べたのが最後の舞台となりました。



『蟲』大正10年11月明治座
キリギリス=二代目猿之助

三代目猿之助(昭和14年[1939]～)は、二代目段四郎の長男で、初代猿翁(=二代目猿之助)の孫にあたります。昭和22年[1947]1月東京劇場で、祖父・父による『二人三番叟』の附千歳で三代目團子を襲名し、初舞台を踏みます。中学から慶應に進学し一旦学業に専念、高校より再び舞台を勤めるようになります。23歳の昭和38年5月、歌舞伎座で祖父の名・猿之助を襲名しますが、翌6月に祖父猿翁、11月には父段四郎を相次いで亡くします。しかし旺盛な行動力を祖父から引継ぎ、さらに発展させていきます。昭和41年より自主公演「春秋会」を主催、古典狂言の復活や新演出に取組みます。また、昭和61年の『ヤマトタケル』を皮切りに次々とスーパー歌舞伎を創作していきます。海外公演でも精力的な活動を続け、昭和60年には様々な困難を乗り越え『義経千本桜』狐忠信役で海外初の宙乗りを見せます。この時の公演では、特にフランスで高い評価を得て、パリ市よりベルメイユ章、フランス政府より芸術文化勲章オフィシエを受章します。全国公演にも熱心な活動を続けるなか、平成16年2月の巡業後に体調が悪化、以後8年間止む無く舞台を休演していましたが、その間もスーパー歌舞伎や復活狂言の演出や指導の活動を続けていました。今月いよいよ舞台に復活、二代目猿翁を襲名します。



三代目猿之助が参加した海外公演のプログラム



「亀治郎の会」第1回～第9回プログラム

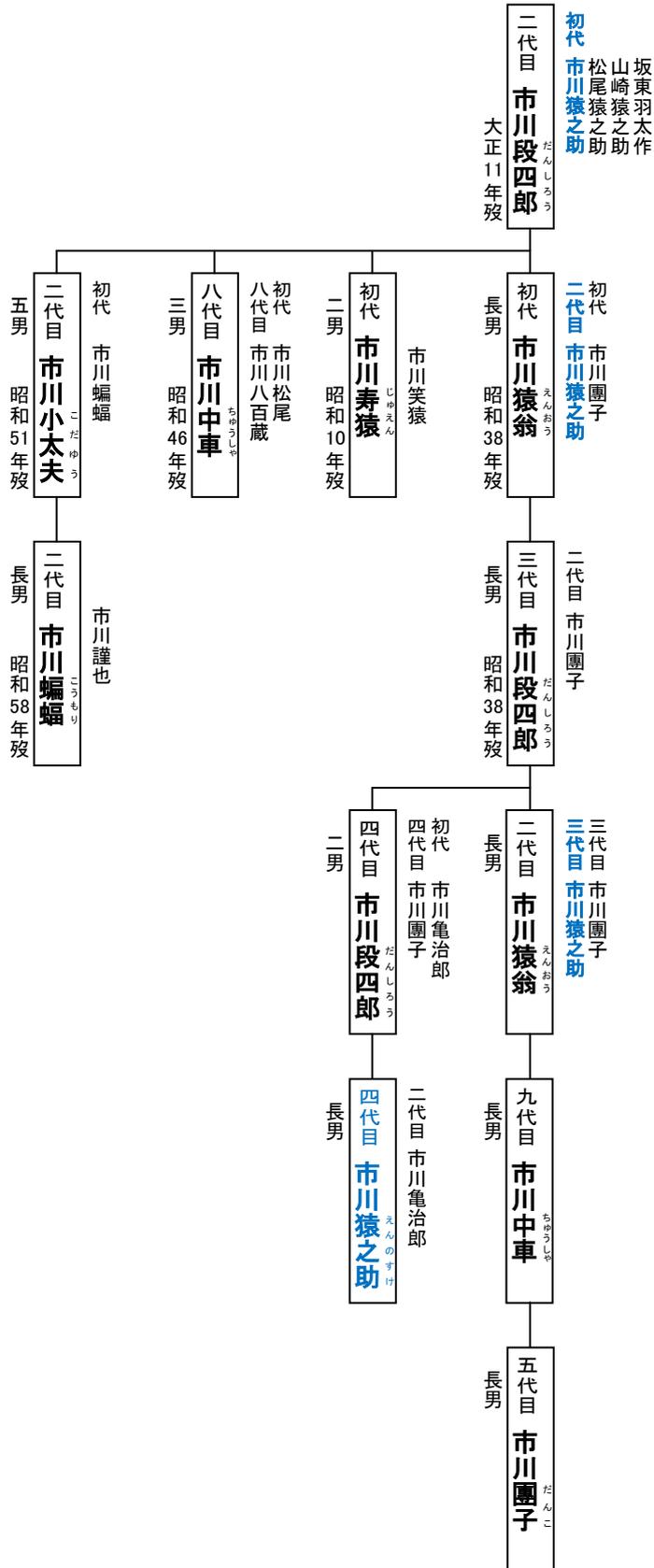
四代目猿之助(昭和50年[1975]～)は、四代目段四郎の長男で、二代目猿翁(＝三代目猿之助)の甥にあたります。昭和55年7月歌舞伎座『義経千本桜』安徳帝で初お目見得、昭和58年7月『御目見得太功記』の禿(かむろ)たよりで二代目亀治郎を名乗り初舞台を踏みます。学業では伯父と同じく慶應大学に進み、国文学を専攻します。『加賀見山』のお初や『NINAGAWA十二夜』の麻阿、『色彩間苺豆』のかさねなど、女形としての高い評価が続く中、平成19年、テレビ初出演のNHK大河ドラマ『風林火山』では武将武田信玄を熱演、以後時代劇のみならず、ドラマ、バラエティー、教養番組と映像出演も増えます。海外では、ヨーロッパ公演で踊った『色彩間苺豆』で、英国ローレンス・オリビエ賞最優秀ダンス賞にノミネートされ高い評価を得ます。平成14年の第1回から平成23年の第9回まで続いた自主公演「亀治郎の会」では様々な大役に積極的に挑戦します。今年5月渋谷ヒカリエオープンイベントとして「亀博」を開催、第8回「亀治郎の会」で狐忠信役に初挑戦する様子の記録映画の上映や、狐忠信が活躍する『義経千本桜 河連法眼館の場』の舞台を再現した展示が話題を呼びました。亀治郎の名で最後の舞台は本年4月『仮名手本忠臣蔵』の勘平役でした。今年140年以上続く猿之助の名跡を襲名します。

なお、来月の展示は同じく6・7月公演で久しぶりに名跡が復活する市川中車の特集展示をする予定です。

■「市川猿之助」関連資料展示一覧■

- 一、『日向嶋』演劇スチール(大正6年[1917]8月歌舞伎座)
悪七兵衛景清(二代目段四郎)
- 二、『粹菩提禅悟野晒』演劇スチール(大正8年[1919]2月歌舞伎座)
浮世戸平(二代目段四郎)
- 三、『坊ちゃん』演劇スチール(昭和5年[1930]7月帝国劇場)
秋野教師[坊ちゃん](二代目猿之助＝初代猿翁)
- 四、『高野物狂』演劇スチール(昭和5年[1930]9月明治座)
物狂い実は高師四郎(二代目猿之助＝初代猿翁)
- 五、『連獅子』演劇スチール(昭和22年[1947]1月東京劇場)
親獅子の精(二代目猿之助＝初代猿翁)
- 六、『義経千本桜 川連法眼館の場』演劇スチール(昭和55年[1980]7月歌舞伎座)
源九郎狐(三代目猿之助＝二代目猿翁)
- 七、『ヤマトタケル 志貴の里の場』演劇スチール(昭和61年[1986]2-3月新橋演舞場)
ヤマトタケル(三代目猿之助＝二代目猿翁)
- 八、『連獅子』演劇スチール(平成13年[2001]7月歌舞伎座)
親獅子の精(三代目猿之助＝二代目猿翁)、子獅子の精(二代目亀治郎＝四代目猿之助)
- 九、『風林火山 晴信燃ゆ エピローグ』演劇スチール(平成20年[2008]4月日生劇場)
武田晴信(二代目亀治郎＝四代目猿之助)
- 十、『於染久松色読版 お染の七役 柳島妙見の場』スチール(平成23年[2011]2月ルテアトル銀座)
油屋お染(二代目亀治郎＝四代目猿之助)
- 十一、東京座筋書 明治37年[1904]6月『東海道五十三駅』挿絵・配役
老母おつた実は怪猫・狩人繁蔵(初代猿之助＝二代目段四郎)
- 十二、歌舞伎座筋書 明治43年[1910]10月表紙『鎌髭』
六部妙典実は將軍太郎良門(初代猿之助改め二代目段四郎)
下男茂作実は田原小藤太(初代團子改め二代目猿之助＝初代猿翁)
参考展示『鎌髭』グラビア複製(『演芸画報』明治43年11月号)
- 十三、歌舞伎座筋書 昭和38年[1963]5月 初代猿翁・三代目猿之助・四代目團子襲名披露公演
- 十四、『猿翁』市川猿之助編 東京書房 昭和39年[1964]
- 十五、『年鑑おもだか'95』市川猿之助編 おもだか会 平成8年[1996]
- 十六、第八回「亀治郎の会」プログラム 平成22年[2010]8月18-22日国立劇場大劇場
- 十七、ヨーロッパ公演 東ベルリン フォルクスビューネ劇場プログラム 昭和62年[1987]11月18-21日
表紙『義経千本桜 伏見稻荷鳥居前の場』佐藤忠信実は源九郎狐(三代目猿之助＝二代目猿翁)
- 十八、ヨーロッパ公演 伊ベニス ラ・フェニーチェ劇場リーフレット 昭和60年[1985]5月4-7日
表紙『義経千本桜 川連法眼館の場』佐藤忠信(三代目猿之助＝二代目猿翁)

【市川猿之助家系図】



≫≫ ご寄贈いただきました

2012年5月24日 映画倫理委員会様より 映画台本163冊御寄贈いただきました。
どうもありがとうございます。

≫≫ 資料出品・展示協力

●『玉三郎“美”の世界』展

2012年5月3日（木・祝）～6月24日（日）京都南座において『玉三郎“美”の世界展』が開催されています。当館からは、玉三郎が南座に出演した公演、映画のポスター計10点を出品しています。京都にお出かけの折には是非ご覧ください。

■ 公益財団法人松竹大谷図書館へのご支援のお願い ■

公益財団法人松竹大谷図書館は、演劇・映画の専門図書館である松竹大谷図書館を運営し、所蔵資料を広く一般に無料で公開して、芸術文化の振興と社会文化の向上発展に寄与することを目的とする事業を行っております。

当館の使命である、資料を収集・整理・保存・公開する図書館事業を確実かつ永続的に達成し、さらなる社会貢献をしていくために、寄附金を募っております。

公益認定を受けた財団法人への寄附金支出者は税制上の優遇措置が受けられます。

何卒、ご理解とご賛同をいただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

●現在ご支援いただいている方々

（了承を得た方のみ掲載）

法人・団体（50音順・敬称略）

株式会社衛星劇場
株式会社歌舞伎座
歌舞伎座サービス株式会社
歌舞伎座舞台株式会社
松竹株式会社
松竹衣裳株式会社
松竹映画劇場株式会社
株式会社松竹映像センター
松竹音楽出版株式会社
松竹芸能株式会社
株式会社松竹サービスネットワーク
株式会社松竹マルチプレックスシアターズ
財団法人 昭和池田記念財団

どうもありがとうございます